

トマト青かび病の発生について

- 1 病原菌名 *Penicillium oxalicum* (Currie et Thom)
- 2 発生物名 トマト
- 3 発生経過
 - (1) 令和 7（2025）年 10 月、栃木県内の施設栽培のトマト（品種：かれん）において、青緑色のかびが表生し、茎が激しく腐敗する病害が確認された。罹病茎から菌を分離し、ITS 領域の塩基配列を解析したところ、トマト青かび病の病原である *Penicillium oxalicum* と一致した。
 - (2) 本病は、平成 18（2006）年に千葉県で発生が確認されている。
- 4 病徴
 - (1) 芽かきや葉かき後の傷口から褐変・枯死が始まり、その後、症状は主茎に進展する。主茎に暗褐色の病斑（写真 1）が形成され、病斑上には青緑色の分生子（写真 3）が密生し、腐敗する。
 - (2) 病斑が拡大すると内部組織まで褐変し、植物体は萎れやすくなる。
 - (3) 罹病茎近くの葉にはクロロシス（写真 2）が生じ、黄白色のかすれ状斑点が認められる。
- 5 防除対策
 - (1) 施設内の湿度管理と換気を徹底し、過湿を避ける。
 - (2) 発生は場で使用した各種資材は、資材消毒剤等での消毒を徹底する。
 - (3) 発病株は見つけしだい抜き取り、肥料袋等に詰めて空気を排出し、口をしっかりと閉じる。その後、日当たりのよい野外に放置し、嫌氣的発酵処理後に処分する。
 - (4) 令和 7（2025）年 12 月 10 日現在、本病に対して登録のある薬剤はないため、上記の耕種的防除を徹底する。
- 6 引用文献
小板橋（2011）：微探収報 24，71-74.



写真 1 茎に暗褐色の病斑



写真 2 葉にクロロシス状の斑点

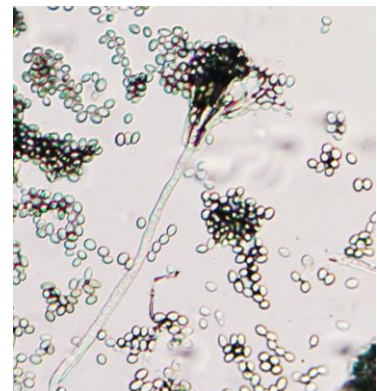


写真 3 分生子

